

第4期第15回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2020年1月23日（木）午後6時～8時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 学習室1・2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：古里貴士（副会長）、太田まゆみ、大野浩子、白崎好邦、鈴木忠道、陶山慎治、辰巳厚子、堂前雅史、服部くに子、向井美子、米倉茂

以上11名

事務局：塩田センター長、田中担当課長、大野管理係長、高木事業係長、三橋主任（記録）

〔欠席者〕 ※敬称略

柳沼恵一 1名

〔傍聴人〕 なし

〔資 料〕 【1】 第4期町田市生涯学習センター運営協議会報告書(案)

【2】 東京都公民館連絡協議会の活動について（報告）

【3】 第4期町田市生涯学習センター運営協議会報告書(案)：赤字加筆修正

【4】 これまでの議論を踏まえ、報告事務局案（12月20日）に関するコメント

開 会

副会長：第15回生涯学習センター運営協議会を開会する。次第に沿って進める。

事務局：会長は本日欠席です。

1 報告事項

(1) センター長報告

業務に関して1点報告します。以前この場でお知らせした、市民参加型事業評価が昨年11月24日に行われ、対象7事業の一つとして生涯学習センターも評価を受けた。コーディネイター（一般財団法人・日本経済研究所職員）、有識者（大学院教授、公認会計士）、公募の市民2名、対象事業の選定に関わった高校生5名の、総勢10名の評価人で行われた。資料、議論に基づく評価の結果、生涯学習センターは評価結果4区分の「よく取り組んでいる」、「改善すべき」、「大いに改善すべき」、「廃止すべき」の中で、「改善すべき」が8名、「大いに改善すべき」が2名で、チームとしての結論は「改善すべき」となった。生涯学習センター事業は、市の大事な公共サービスの1つであり、現在の地道な活動は十分評価できるが、以前実施した市民意識調査の結果等を踏まえ、①「認知度が低いことについて、幅広い年齢層、特に若い世代、そして市内の広い地域の人に生涯学習センターを利用してもらえるよう適切に周知を行ってほしい」、②「多様化している市民ニーズを的確にとらえ、

講座等がそうしたニーズに合致しているかどうか、見直しをしながら誰にとっても利用しやすい生涯学習センターであってほしい」という改善を求める意見が多数を占めた。また、今回の事業評価では、同じ生涯学習部の図書館も評価の対象となったが、図書館との連携という視点では、「市内に1か所の生涯学習センターと地域に点在する図書館がより連携していく必要がある」との意見が出された。今後、この事業の事務局となった部署とも相談し、改善プログラムを策定して、取り組んでいくことになる。

副会長：生涯学習審議会の報告は会長欠席のためなしです。

(2) 東京都公民館連絡協議会の活動について

委員：1月21日小金井市で開催された第10回委員部会について報告する。(以下資料2に基づき報告)

2 議 題

(1) 第4期町田市生涯学習センター運営協議会報告書(案)について

副会長：議題に入ります。報告書案について、次回は細かな字句の修正のみとなるよう今日報告書案の中身について検討を尽くします。

事務局：(事前送付した報告書案に対する意見から修正した点を報告)

副会長：提出資料について〇〇委員お願いします。

委員：細かな文章の表現は最終的に細かくチェック、検討したほうが良いと思う。内容にかかわる部分について、2P表の⑥、健康面と時間が並列しているところを修正して、利便性とは時間や距離なので、利便性の前に時間、距離、場所としたほうが良い。気になったのは、下から2番目の「民間でも民間同士」の民間が何を指しているのかわからない。行政とかNPOとか市民団体とか、民間だったら企業とか、民間の〇〇機関とかわかりやすく表記したほうが良い。4ページ「市民大学の受講生の決定プロセスの見直し」、これは、「市民大学はすごくたくさん応募があっても抽選で外れて当たるのが難しい」という感じにとれる。「ことぶき」のほうが人気あるのではないか。どちらかというとも市民大学は人が集まらないのが悩みなので、これが市民大学の例でいいのか検討したほうが良い。

委員：市民大学等ではだめだということですね。もう少し広げて書いたほうがいいのか。

委員：市民大学だけ特別に問題があるように見えてしまう。

委員：5 ページで「一般行政」という言い方をするか、「行政」でいいのでは。NPO のあとに市民団体を入れたほうが良い。民間機関とは何を指すのか、企業なのか、明確にしたほうが良い。最後の「市民ニーズに寄り添った事業展開の方向性」、ここに書いたことを最大限生かすならば、最初の「これまでの報告書では」の「これまでの報告書」は何を指すのか、今まで出た報告書なのか、この文書の前半を指しているのかよくわからない。同じことが繰り返し書かれているので少し削除し、ここでは「市民ニーズに寄り添った」ということで、「地域で会議をしているよりは一緒に学習して、課題について理解を深めたほうがより地域の繋がりを築きますよ」と書き直した。最後のところもくどいので消して、「地域の連携」が重要なので、「今後は、各地域とどれだけ強固な連携を築いていけるかが課題となります」と最初に書き、前半に出てきている部分は消した。最後に、更なる検討が必要というのが3回出てきているのでそこは違う言葉に置き換えた。

副会長：提出資料について〇〇委員をお願いします。

委員：資料3と4です。前回、中間まとめにするということで、今回いろんな案が出て、andではなくORでまとめたほうがいい。中間まとめなので皆さん言いたいことは言ったほうがいい。ここまでのところ一部オーバーラップしますが、資料4が1ヶ月前、副会長から宿題が出たものです。(資料4について説明)報告書を作成するうえでのポイントとして構成を見直し、趣旨をはっきり書く。中間まとめであることを言う。〇〇委員のご提案で「吸い上げる」を「把握する」に変更する。報告書に盛り込むべき内容として、市民意識調査の結果を踏まえる。市民ニーズは矮小化されている。これとこれ、といった捉え方ではなく、センターが事業として取り組むべき市民ニーズを把握する仕組みが不十分であることを認識して書く。市民ニーズへの対応として書かれている内容がおかしい。「まちチャレに表れた市民ニーズ」という言い方もおかしい。あくまでも「まちチャレ」は講座づくりを通しての課題解決。応募された個々の講座テーマが「市民ニーズ」といった捉え方ではなく「講座づくりの市民ニーズ」に対する事業の公平な進め方としてどのように改善していくかと考えている。「NAVIに対する問題提起」もあとで触れていきたい。「選択バイアスの罠」については、副会長の非常に力作でよくまとめていただいたので、あまり問題はないが、要は、「利用したことがない」「関心がない」「知らない」そういう人たちについて可能なかぎり意見を収集しないと間違いが起る。間違ったPDCA、単なる起承転結はやめようという話。正しい尺度、エントリー式にしてやろう。市民大学講座の話。ギャランティ型とベストエフォート型、これは言葉が難しいので、副会長はやわらかく書いている。あと、一般市民の目線。

(資料3について説明)細かい表現も含めてチェックした。表紙の1枚目、今の市民ニーズに対する考え方、いきなり「まちチャレ」これは違和感がある。したがって(2)は「市民ニーズへの対応」で(2)の1として、各委員のイメージによる議論をした話、(2)-2は「市民提案型事業{講座づくり★まちチャレ}をもとにした議論で、二つやりました」としたほうが坐りがいい。市民ニーズについて、皆さんの修正提案に違和感は無いのでいいと思う。「はじめに」はいじってない。「2(1)

市民ニーズに対する考え方」の1行目、『一口に「市民ニーズ」といってもその内容は様々です』一口に言う必要は無い。報告書はちゃんとした形式的な文書なので、なるべく余計な表現をやめようということで、横棒は削除です。基本的に置き換える時は棒線の前に文字が書いてある。「その地域、世代によって異なり」、「そのような変化に合わせて」自由な学びの保障は、後ろにあるのでここでは言わず、「貢献することが生涯学習センターの役割です」に修正。次に「直接それができなくても」削除。下から2行目、「一般市民の目線に立って実現していくことが求められています」に修正。次ページ(2) - 1は各委員のイメージによる議論。2行目、「意見を出し合いました。その中で一例として出された意見を整理すると次のようになりました。」に修正。議論を尽くしたという覚えはなく、「皆さんどうでしょうか」とアイデアを出して、まとめたのがこれです。②この間言いました「経験知」。前回の議事録でも「値」になっていますが、ここは知るほうの「知」です。「マンパワー」というのは労働力で、シニアにはマンパワーを期待しているわけではない。「その経験知活用のニーズ」、「経験知の活用」。その下の⑥「生活に密着したテクノロジーの講座や」をつけ加えた。その右は「身近なテーマや場所・時間帯での学びへの支援」のほうがいいと思う。枠の外の2行目「い」が抜けていて、「市民ニーズ」が重なっているのを削除し「なお一層感じ取り」に。「以下の解説部分は下記タイトルを付して、そのままフォントを一段小さくして、箇条書きにまとめることとする」ほうがいい。「※(対応するセンターの取り組みの解説)」は、協議会の議論ではないので解説でいい。次ページ(3)は削除。「(2) - 2 市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」をもとにした議論」は、基本的にセンター長に報告するものなので、「センターでは」という書き出しはおかしい。「2017年度から開始している」以下、「の実施状況をもとに議論しました。」そのあと「実施しているもので」・・・「次のとおりでした」。表があって、その下「市民ニーズ」ではなく「講座づくりの市民ニーズ」。「まちチャレ」は、「こういう講座を作るべきだ」というので動いていくものなので、そのほうが正確。「市民グループからのアイデアという形で、垣間見ることができます。」次ページ真中、「まちチャレはあくまでも、・・・今後議論すべきです。」と入れたほうがいい。「まちチャレ」の事業をもっと公平な進め方で、どうしたらいいか、予算の関係で10のうち5件なら、「安くして件数を増やす」とか、やり方はある。そういう議論を本当はしなければいけないが時間がなかった。「まちチャレ」の公平な進め方としてやるべきということです。「3(1)生涯学習センターの認知度の低さ」の「そのためにも、」は順番を入れ替え「いままで利用機会の少なかった8割の・・・重要であると考えます。」としたほうがいい。次ページ5行目「センターを利用したことがない市民の意見を可能な限り収集する必要があるとともに、・・・などのアイデアを検討し」の中に、注釈を入れた。(3)市民大学の「受講生…」は、「受講者」のほうがいい。「…決定プロセスの見直し」は、エントリー方式とあるので、「方法」ではなく「方式」と合せたほうがいい。申込みの履歴を「管理」ではなく「把握」に。「管理」というと反応する人もいるので「把握したうえで」ここも大事。「市民の目線で」上から選ぶのではなく、そういう姿勢を見せたほうがいい。4(1)の3行目「NAVIと略記」略記で統一しているので揃

えた。「協議会において」のあと「年間20000冊超、年間800万円超の税金を使っているという実態が取り上げられました。にもかかわらず」とした。下から2行目「認識しておく必要が」は、「は」にして「ありますが」と続ける。次ページ一番上。「の」は削除「など、限られた予算」。5行目「事業の整合性をもたせるためにも・・・旧態依然と続けている紙媒体のNAVIの発行を見直すべきです」とするほうがいい。次ページ三つ目のパラグラフ3行目「講座づくりの市民ニーズ」としてください。最後のところ、「また、センターの事業分析においても、形だけの「起・承・転・結」の事業報告ではなく、客観的なPDCA評価ができるように、是正を求めます。残念ながら、今期は中間的なまとめになりましたが、協議会の運営については、ニュートラルな立場で進行するファシリテーターの役割を設けて議論をまとめるなど、協議会の活性化に向けてその進め方を見直した方がよいと考えます。」を追加した。一応今までの議論の範囲で盛り込むべきことだと思い盛り込んだ。

副会長：残り1時間ちょっとあるので、いただいた修正案をもとに、もっと盛り込むべきではないか、あるいははずすべきといった意見を出しあって良い報告書を作成できればと思う。字句の修正より内容に関わる部分から発言ください。

委員：その前に、このあとどんな手順になるのか。

副会長：次回は字句の修正くらいです。

事務局：今日お話しいただいたものを盛り込んだ資料を、次回会議前までにご覧いただき、次回最終回に集まっていただく。

委員：それでうまくいくとよいが。今回の報告書は、「中間まとめ」ということだったので、「決定されたことは一つも無い」というスタンスでやっているの、皆さん意見を言って盛り込んで仕上げたほうがいい。

委員：委員のコメントもこの内容を踏まえて出すわけですね。今回の〇〇委員の訂正案の中で、ポイントとしては二つ、全体の構成の2番目、市民ニーズのところをこういう形に変えていいのか、それと最後のおわりに5行付け加えた部分が、委員の総意として出すかどうか考えます。その点を話し合ったほうがいいのではないかと思います。

副会長：わかりました。それでは、構成が少し変わっていますので、それと最後に付け加えた部分を全体で共通の意見として出すかどうかについて意見を頂きたい。先に〇〇委員、今のところについて何かありますか。

委員：総意と受け取られるのだったら、総意ではないようにしたほうがいい。それで、置く場所が総意というふうに受け取られるのであれば、別のところに振ったほうがいい。総意として認められないのであれば、例えば「その他の意見」「提言」とか、そういう形で残してもらったほうがいい。(2)の話は、「まちチャレ」のところに出てきたテーマが市民ニーズという捉え方は間違いだと私は思っていて、あれはこう

いう講座を作りたいということで挙がってきたものだから、そういうふうにとらえないとおかしくなる。そうじゃないと言うのだったらここで議論しないといけない。もしそうであれば、こういう書き方のほうが、(1)も(2)も(3)も出てくるのがおかしくなってしまう。あくまで講座づくりの事業なので確かに垣間見ることはできるかも知れない。ただ、こういう講座を作ってそれが市民のためになるということとはちゃんと捉えないといけない。

委員：こういう構成を変えるのは、いいと思う。最後の「おわりに」は、〇〇委員が言ったようにここでまた議論をして時間的にどうかと、もしまとまらないようでしたら、〇〇委員が言われたように、こういう意見があったと追記の形で載せるのはどうかと思う。

委員：言い足りなかったが(2)のところは、変えるような提案に聞こえるかも知れないが、前回私は「これはおかしい」と言っていた。それでたたき台としてこのように提案しているので、決まったことを変えようという提案ではない。前回私が言った意見をここに反映させました。誤解のないようにお願いします。

副会長：わかりました。分けてやります。まず(2) こういうふうにも前回の意見を踏まえて変えるということについて、皆さん意見をだしていただきたい。

委員：私の感じでは、すごく良くなったと思う。私たちは議論しつくしていない。ニーズを最初に定義してやるやり方と、あえて定義せずにボヤっとやるやり方の二つあるが、今回はニーズとはこれだというようなことは議論しないほうがいい。だとしたら、私たちがやってきたことを正直に書く感じで、それぞれの専門分野から「こういう必要を感じています」というのが出たので、それを尊重して各委員のイメージによる議論で、これは結論ではないけれども、私たちはそれぞれの持ち場で感じていることはこうですよということを出したということではないか。各委員のイメージ、「イメージ」という書き方でいいと思う。それと私は前回、「まちチャレ」を3のほうに持っていくべきかなと思っていましたが、〇〇委員の指摘にあるように「講座づくりのまちチャレ」をもとにした議論なので、「もとにした」というのがすごくいいと思う。これがすべてではないし、「まちチャレ」に表れたのが全部のニーズだとは思っていない。『「まちチャレ」に出てきたものをもとにして整理してみたらこうなりました』というのをそのまま表現するだけなので、そのまま書いたほうが分かり易い。

委員：なんでイメージかというと、議事録にも書いてあるけど会長から皆にそういう言葉を使っている。「イメージを出してください」と。だからイメージと言っているだけで私のオリジナルではない。

委員：イメージでいいと思います。

委員：(2)は我々が感じていることをまとめられたものだし、(3)はまちチャレという舞台を通して見えてきたものだから、そのままでいいかなと思う。これをベースにいろいろ考えて行こうという話でしょうから。

副会長：構成を変えるということではどうか。

委員：提案されたとおりでいいと思う。

副会長：ほかに如何でしょう。なければ〇〇委員に提案いただいた構成の仕方に変えて整えるということではよろしいですか。

それでは最後の5行のところですが、これをここに書くのか、あるいはまた別のところか。難しいのは、今回この協議会の報告書となっているので、「ある委員からこういう発言がありました」という書き方が本文中もされていない。我々はこのにいるので分かるが、読み手は、市民がホームページ上で見たときなど区別がつかないと思う。置き方は、もし総意として書かないのであれば非常に難しいなと思う。私の個人的な案としては、市民ニーズそのものとは質の違う議論でもあるので、〇〇委員のコメントの中に入れてほうが、おさまりがいいのではないかと思う。

委員：コメントに書くつもりは全然ない。これだけで400字いってしまうから。要するに皆さんどうお思いですかということ。中間まとめしかできなかった。最初に「残念ながら限られた期間で」と書いてある。読んでいる方に尻切れトンボで何？と思われるのがいやだから。「おわりに」に書いてあることもよくわからない。前にも述べていることに触れているし、もっと「おわりに」なんだから、センター長に報告して、それを上に報告されたいとか、そこに何を言いたいか。PDCA・事業分析を皆さん素晴らしいと思っているか、毎回意見を言ってるが、あれは起承転結でPDCAではない。「何をやりました」「何をやっていこう」というだけ。PDCAは最初にプランニングし、1年間とか1ヶ月とか尺度を作ってやり、やってみたらこうだったからと、サイクルを回していかなければならない。これは回していない。よくあるパターン。PDCAが誤解されているのはそこで、それを事業分析と言っている。皆さん良い意見を言ってるが全然フィードバックがかかっていない。それをちゃんと是正したほうがいい。だから「求めます」という言い方がきついのであれば、もうちょっと和らげてもいい。「検討されたい」でもいいけど、「おわりに」に言うべきことはこういうこと。「運営の仕方どうですか」ということで、表現は変えてもいい。変えてもいいですけど事業分析と運営の仕方について、どなたかもっといい文章を考えてください。これを言わないと報告書としてなんかトンチンカンな報告書だなと思う。3期までの報告書もみなトンチンカン。何を言っているのかわからない。何をやってきたのか。次の期に何を期待しているのか何も書いていない。語尾が強いのであれば弱めればいいが、何か2年間議論して、次にはこうしましょうという姿勢がないとモヤモヤする。自由な学びの保障がどうのと言って、それで終わっている。3期までは。具体性が何も無い。そういうのを見ているので、皆さん思っていることを書いたほうがいいと思ってこのPDCA・事業分析のことをあげた。

委員：今議論したいのは「おわりに」の項目についてで、私の意見は、「おわりに」は1から4まで色々出し合ったそれを、そのデータが何を言わんとしているかというのをまとめるものだと思う。それは別に押し付けているわけではなく、我々がデー

タを出したものをまとめるところですよ、これをさらに深めて下さいねというのが今後の方針を示しているのだからこれで結構だと思う。

副会長：この5行の取り扱いですが、〇〇委員の提案に対して、この場でどう考えるか、いかがですか。私、個人的にはもう発言しましたが、市民ニーズという今回のテーマに対しては質が違うのではないかと。〇〇委員の意見は、「ここのやり方をもっと変えていかないといけない」、あるいは、確かに事業分析のところは市民ニーズに関わってくる気はするが、「事業分析のやり方を変えるべきではないか」、意見としてはわかる話ではあるが、最後の3行はこの会自体の進め方のことなので、市民ニーズという報告のテーマからすると、あまり直接的なそれに対する意見ではないという気がする。なので、私の意見は、むしろコメントのほうで書いたほうがいいのではないかと思った。

委員：コメントには持っていかない。盛り込んでほしい意見を言ってくれということだったのであげた。入れる場所がおかしいのであれば他に持って行ってもいいが、そうすべきだ。人から上がってきた意見を削除するような、そういう場面ではないと思う。しかも、最初に「残念ながら結論がでませんでした」といっているのに、あなた方2年間ダラダラやって中途半端で終わって、「それで何」と一人一人思いませんか。要するにこの協議会の活性化です。活性化していないからそういうはめになる。中間まとめしかできない。何一つ「こういうふうにしましょう」という結論とか、「来期に向かってこういうことを提案しましょう」とか、ひとつも決めていない。そういう活性化ができなかったから、「中間報告です」と前段で言ってしまう。それに対しての、この5行でなくてもいい。この五行はどこか入れ場所を考えます。これは削除できません。

委員：〇〇委員の仰っていることはよくわかる。私も「こうしたい」というのを長年ずっと思っている。今この報告書を、このタイトルで書くとしたら、こうしたらどうですか。4のところ、センターの事業分析のときにニーズをどう把握するか、何かいい案をひとつ考えてみませんか。事業分析の中からニーズを探るというのはどういうことがあるのか。「おわりに」が第一、第二、第三とある。その4つ目に、私たちは事業評価をやっているから、その事業評価の中からニーズを汲み取るとはどういうことなのかというのを一つ入れてみませんか。そうすると、1回目の方の事業評価のあり方のときでも、評価ではないという結論には達して、「次年度職員の方が企画するときの参考になる程度しか今はできない」という結論で今までやってきている。私たちもあれは評価だとは思っていない。事業分析という言葉になっている。それも私たち運協の委員の役割なので、事業分析をするというその中から何かニーズを見つけ出す方法がないのかなというのを考えてみて、それをここに入れるというふうにするのと・・・。

委員：ではPDCAはやめます。この5行は取ります。それで4番目に何を書けるか考えます。

委員：〇〇委員の意見を基に考え、「残念ながら」以降はここに入れるというよりは、最後、私たちが議論したほうが良いと思う。これこそ、私たちが来年度に向けてこういう不満を残さないためにも、もう少し短い時間で建設的な議論ができる方法を考える。コメントには入れないけど考えたらいい。書いていただいてもいいけど。

委員：書かないです。

副会長：ただいまの提案は、第4のところの事業分析と市民ニーズの関係を追加して書くということですが、どういう書きぶりか。今ここで議論して提案を盛り込むのか、それとももうちょっと前段階で、事業分析をより市民ニーズの把握のための意味機会として、事業分析のやり方をよりブラッシュアップというか、「よりよくしていく形で改善していくべき」ぐらいの、具体的な中身や提案に踏み込まずに、そういった文章でまとめるのか、そのへんどういふ落としどころのほうがいいのか。

委員：私は、全体的には「おわりに」をしっかり、具体的にと思う。例えば、第一のところ、センターの存在自体を知らない人々まで視野を広げ、というのはわかっていることで、もう一步踏み込んで書いた方がよいのではないかと。

委員：これは副会長の案ですか。

副会長：私の文章です。

委員：もう一步、「おわりに」だったらもうちょっとあったほうが。

副会長：ただ、ここで議論したものしか載せられないと思うので。具体的に、ここで皆さんと話し合った総意で、もっとこういったやり方をセンターにお願いしましょうというのを・・・。

委員：ではそうしましょう。出してもらったら。

副会長：今までのところでは確定したものが無いので。ここまでしか書けないということがあります。

委員：せっかくまとめていただいたので。これを生かして。あまりにもサラッと書かれているので、もうちょっと足したいという感じです。

副会長：第一に、第二に、第三にというまとめ方を、前回の会議の話を意識しながらまとめたが、具体的な提案というところまでは難しい気がする。今までの議論の中で確定したものが無いので、より踏み込んでここを表現するためには、こういった形が考えられるのか、意見を出していただいて、盛り込み修正するのはありうる。

委員：例えば第一のところ、「そもそもセンターの存在自体を知らない人たちに視野を広げて」とある。その前のNAVIのところ、「NAVI以外にもいろいろなスマホ版NAVIも用意しよう」という、そういうものをどんどん活用してなるべく届けましょうみたいに書くとかですね。

委員：それは前に行く。

委員：戻ってしまうということですか。

委員：それだったら「前の文章に戻しましょう」ということになる。「おわりに」だから、前に書いたことを匂わせて書いているのであれば、第一には知らない人がいる。第二が講座づくり、第三がアウトリーチがどうこう、そういうものをうまく回すために事業分析ですか、第一から第三をうまく動かすための事業のやり方みたいなものを書く。上のほうはモヤモヤしてわからないけど、それがもうちょっとできてからもう一回見直したほうがいい。

委員：私たちが論文を書くときは、今回は研究が十分じゃないけど、次機会があったらこうしたいみたいに書くことがある。課題をそういうふうに今後の課題につなげるように、何かもう一步ちょっと書く一言があったほうがいい。前半をまとめたにすぎない「おわりに」になるので、次に繋がるような一言を何か、皆で一生懸命考えたらどうでしょう。

副会長：まだ、あと30～40分はありますが、その中で、この中身を踏まえて一個だけでもここの総意として、今後の課題として出せるものがあれば、それをここに載せるということですか。中身やいろいろな修正した文章をみて、こういった今後の課題を、のせることができるんじゃないかということがあれば出していただきたい。

委員：生涯学習センターの対象者は、市民全体ですということですが、本当に市民全体を生涯学習センターがカバーする対象なんですか。例えば、「知っている」「知っているけど利用しない」とありました。「知っているけど利用しない」のは、事業内容がニーズに合っていないからとここに書かれているが本当にそうか。自立している人もいる。頼らなくてもやっていけるそういう人たちはそれでいいんじゃないか。そうではなくて、本当に頼りたい人にどういうふうに手を差し伸べるか、そういうのがあると思っている。ただそこまで遡るとかなり時間がかかってしまう。

委員：アンケートの結果ですよ。

委員：アンケートは、20歳以上の人たちを任意に捉えて聞いた結果であって、そこまで本当に生涯学習センターを判断するニーズになるのか。

委員：そう思うのだったらアンケートに意味はない。

委員：生涯学習センターがやっているアンケートは違う。それからNAVIの話で、前は5千部、今は4千部ほどに減らしている。誰に見せるかということ、全員の市民に見せると40万いる。20歳以上でも30万以上はいる。比率だけでも1%いくらかいかなの話で、そのへんがどうなのかなと思う。〇〇委員の「見直す必要がある」というのはショックを与えることになる。どんなに良いものでも常に見直しは必要で、動機付けになるとは理解している。本当に来て欲しい人あるいは手を差し伸べたい人がどういう状態になっているかという把握の仕方というのは一工夫がいる。

委員：〇〇委員に、第四の内容ですが、第一から第三を円滑に、効果的に進めるためには事業をちゃんと分析してP D C Aを回してやっていかないといけない。それを測るのも協議会の役目だから、協議会をもっと活性化していく必要がある。みたいなのを第四に入れる。そういうイメージではないか。

委員：「センター運協がどうあるべきか」というテーマならば、それを入れないといけないと思うが、今回は市民ニーズに沿った事業をどう進めるかということなので、少し特異過ぎるのではないか。

委員：第四には要らないということですか。

委員：はい。私はそう思います。

副会長：事業分析のことは、本文中にもでてきていません。

委員：そういえば、それが運協の一番の仕事であるのに、一回も触れなかったというのは変でしたね。

委員：というか4の（3）で、と書いてある。でも4の（3）は地域連携のことしか書いてない。事業展開と言っているので、事業の話はそこに入れてもいいかも知れない。

委員：ここの話は〇〇委員が入りたいといったところです。鶴川の例。

委員：僕が入れたわけではない。

委員：発言は。

委員：発言は私です。

委員：会議するだけじゃなく、皆で学習を通してやったほうが、よくわかるし、絆もできる。そうしたら、ここは「市民ニーズに寄り添った事業展開の方向性」というのは大きすぎるから、地域と市民ニーズみたいなものに変えたほうがいい。「市民ニーズに寄り添った事業展開の方向性」が、地域の例だけなのかということになると、ただの会議じゃなくて学習を通してというのは素晴らしい意見なので、各地域の課題解決とか各地域のニーズに合った展開方法のひとつとしてということじゃないと、この「市民ニーズに寄り添った事業展開の方向性」では結論…。

副会長：例えば、「地域と連携した市民ニーズの把握とその事業化」みたいな。

委員：ちょっと長い。

委員：もうちょっとやることがわかるようなネーミングにすることは大事だと思う。4（3）の市民ニーズの頭に、「地域固有の市民ニーズに寄り添った」と、これはどちらかという地域固有の話だったかなと思う。（2）は、「市民ニーズに応えるための情報収集と発信」。市民ニーズの前に「地域共通の」的な全体の話じゃないかなと思う。全体と地域といった言い方もあると感じた。（3）は、「地域固有の」です。

委員：私、書き直させていただいたけど、私が削って文章を変えたのは、「これまでの報告書では」というところから除いて、「協議会では、地域の市民ニーズと学びの関連についても意見が出されました。防災計画の作成や、特殊詐欺被害の防止など、地域の課題に対しては、そこに住む老若男女、皆が一緒に課題解決に取り組んでいく必要があります。そうした問題をただ会議で議論するだけではなく、一緒に学習することによって理解を深めた方が、より地域のつながりを築くことができます。地域にどのような学びの環境を整えていくか、またどのように地域に合わせたプログラムを展開していくかを考えることが大切です。」というふうにして、「今後は各地域でどれだけ強固な連携を築けていけるかが課題となります。」としたほうが、ここで地域ニーズって言うてしまうと市民ニーズと違う言葉なのかと、またその定義がどうか、地域ニーズと言っていいかわからないですけど、その個別の地域ニーズに沿った事業、それぞれの地域で展開していくということではすごく意味のあることなので。

委員：タイトルはそのままですか。

委員：タイトルは変えて。(3)は「市民ニーズに寄り添った事業展開の方向性」ではすごく大きい。

副会長：〇〇委員からは「地域固有の」というフレーズも出てきています。決まっているわけではないので、アイデアがあれば出していただければ。(3)の中身に対してもっと限定したタイトルにしましょうということ・・・。

委員：地域ってことをクローズアップしましょうということです。

副会長：それで今〇〇委員から「地域固有の」というフレーズを出していただきましたが。

委員：「地域固有の市民ニーズ」ですか？私はその次に言った「地域課題」のほうがしっくりきます。「地域課題に寄り添った事業展開」、「の方向性」は要らないかな。

副会長：市民ニーズという言葉は使わずに地域課題ですか。

委員：市民ニーズは、「町田市民ニーズ」っていうふうにならなくても市民じゃなくて、地域ニーズ。しいて言うなら、ただ地域ニーズというのはあまり聞かないので、「地域課題に寄り添った」とか「地域課題解決に向けた」と言ったほうが小さいイメージ。

委員：事業展開の方向性は。

委員：事業展開でもいいですが、方向性というとならまたほわーんとした感じで。

委員：方向性は要らない。

委員：事業展開で終わりか。

委員：事業でもいい。

委員：事業そのものは鶴川などでスタートしている。それを広げていく、発展させていくということですね。「方向性」は取るとして、市民ニーズというのに変えて、「地域課題」あるいは「地域課題解決」という意見が出ています。

委員：地域課題に向けた・・・

副会長：地域課題に寄り添った・・・

委員：地域課題に向けた事業展開

副会長：地域課題解決に向けた事業展開

委員：それがいいね。

副会長：整理すると（３）のタイトルを「地域課題解決に向けた事業展開」と変更することでもいいですか。

（全員同意）

委員：さっきの四は。

副会長：四は結論が出ていない。最後のところを第四にする、付け加えるという意見のところですか。それに加えてというのも変ですけど、事業分析の話は本文中に出てこないの、例えば（３）のあとに（４）として事業分析を少しだけでも入れるのか、あるいは本文中には入れずに、最後に、さっき出ていた今後の課題として、その部分は検討できなかったから今後検討すべきだっという課題で終わらせるのか、というのはパターンとして有りだと思ふ。皆さんどのように考えますか。

委員：第一と第二と第三でもやったほうがいい、こんなこともしなきゃだめだよと投げかけて。スタッフ・予算が増えるわけではないのに、やったほうがいいことが山積み出てきて。事業分析をやるには、本当は何かを削ったり、見直したり、縮小したり、効率化したりしないと、たぶん現実的にはできない。だから去年は、それはそれでよければ、そのまま今年もやる。こんなの要らないって言われたり、参加者が０人だったわけでもないの。より良くと思ってやりつつ、第一と第二と第三も、これもやって、あれもやってというのは、これをやるために今ある事業を。これはボランティアコーディネーターの仕事も一緒です。いろんな良いイベントがあっ入れてたいけどそれにはどこか削らないといけないので、勇気を持って削るという言い方をする。削ったり、見直したりしながらで、全体で事業が発展する。事業分析をしてこれがダメだよというのと、これを盛り込みたいというのとは表裏一体なところがあって、今あるものだけを見たら悪くなくて全然良かったり、ちょっと定員に満たなかったら、これを改善すれば次は満たすでしょ次はって、事業は減っていかないです。それと新たにやるべきことでアウトリーチを伸ばせとか、周知するためにこんなこともあんなことも、モバイルも入れてSNSも入れて、どの辺に着地点を見つけていくかという当たりがこの協議会で議論すべきなのか、私はわからない。

委員：だからその諸悪の根源は、事業分析の回し方が全然ダメだから、ということ煮詰めて言っている。

委員：今やっている事業分析と聞こえる。ではなくて、これからやって欲しい事業を、仕事を盛り込むためには今ある仕事を削る方向というか整理するというか。そうすると大きな枠組みな話になってしまって、どこまで遡るのかという話になってしまふ。

委員：それが言えればいいけど。言えるだけの材料が無い。この人たちは権限が無いから、やるのはこっちだから。ただやり方が間違っているということは言えると思って一生懸命言っている。ただ漫然とやっているの。あれやれ、これやれとか言われる通り無理ですよ。「アウトリーチだ」なんだって、右から左で抜けてしまふ。やればやりますで、やれるだけやっておしまい。じゃあ、このセンターで「ギャランティすべき仕事は何ですか」というところがモヤモヤとしているから、そこを言っていると思う。「ここはしっかりやれ」「これはいいよ」それが副会長の案に少し書いてあった。やるべきところはして、それは理解されて入っている。具体的な名称は書けない。この事業はどうするとか、わからない。だから今、言いたいのはそのいうことをここに何か書くべきだと。

委員：課題解決のためには、職員の増員が欠かせないと書いてはだめですか。こんなにあれもこれも、どこの課もみんなそうだけど、職員は減らされ、そういう状況の中でやることばかり増やされてできない。これをやっていくためには、運協としては、職員の増員と予算の増額を望みますと。

副会長：私はいいかと思う。今回の議論の前提は、限られた予算と人員の中で何ができるかというところではある。あと、1館しかないという前提の議論。そもそも論を言うこと自体は、それが実現するかは別にして、その論を言わないとそれが無くなって、ある意味悪しき現実主義みたいなことに行ってしまうてもよくは無い。ここに対する人員の配置と予算の増額は、なかなか受け入れてもらえる提案ではないと思うが、そもそもはそこがまずはあるよね、と触れること自体は、別に悪くはないと個人的には思う。

委員：もしそれを書くとするなら、そもそも論は5番の中には触れないで、終わったところでまた最後に、こういう市民ニーズの話でこれから色々やることはたくさんありますね、だけれどもこれを実現するためにはそもそも論もありますよと、最後に話題となりましたと。終わりの終わりに書くのもいいかも知れない。

委員：私はコメントに思い切り書きます。それじゃあだめなんだろうけど。必ず報告書だと成果と課題を書かされるけど。

委員：私は、これで提案したことに対しては、いいと思うことは優先順位をつけて一つずつ地道に、確実に、冷静な判断で進める、その積み重ねだと思っている。それが1年でできるか、2年かかろうが要するに前進あるのみ。継続は力なり。それは

今ある体制で地道にやっ行って行こうということ。もう一つはやっぱり、あるんでしょ
うね、そんな体制でいいのかと。

副会長：そもそも論としてはありつつ、その意見としての全面展開は難しいと思う。例
えば我々、予算がどういうふうには減額されているかどうかもわからない。具体的な
数字があるわけではないし、職員体制の変化とかが判るわけでもない。もしそれが
言えるのであれば、様々なニーズがあってそれを実現する中で、でもやっぱり予算
措置されないのはおかしいでしょ、ということは言いやすい気はする。その全面展
開はちょっと難しいなど。ただそもそも論を手放してはいけないというのは前提と
しはある気がします。

委 員：私は反対です。それはすごく良く判っている。私たちはその中で何か知恵を絞
りましょうということをやってきたので、そういう結論にしてしまったら今まで何
をやっていたのかというので。もちろん予算を要求したり、人を要求したりとい
うのは重要だと思いますが、今ここでそれを言うのは反対です。

副会長：先ほど〇〇委員の意見を聞きながら、第一、第二、第三、第四の話になってく
るかも知れないが、これを実現していくためには、〇〇委員の意見とも重なるが、
事業分析のあり方をよりブラッシュアップして、事業のやり方を改善するためにも、
あるいはこういったものを盛り込むためにも、そこを検討していかなければいけ
ないというのを最後に触れるというのは有りかなと思う。

委 員：言われるとおりでと思う。第一、第二、第三とニーズの発掘の必要性、言わば
「仕事増やせよ」ですよね。それを支えるために客観的な事業分析が出来るよう
になることと、実施できる体制を組まなきゃいけないというのを、その中に人員と
か入れてもそんなに不自然ではない。確かにそれはお金と人を増やせば全部解決す
るよというので「やるのは何じゃそりゃ」となるかも知れないけど、やっぱりそこは
ちゃんと抑制して、実現性を前面に出していけば。

委 員：お金と人があっても解決しないことはいっぱいあります。むしろ今のままじゃ
解決しないと思う。

委 員：役所のパーキンソンの法則というのはご存知でしょう。役所というのはお金が
あると人が増えると効率化の前に仕事を作ってしまう。だから役所の仕事では、予
算を増やさない、人を増やさないというのはタブーです。普通民間は逆です。
それは納税者からも言われる。

委 員：人とお金についての分析は足りていないので触れないほうがいいと思う。例え
ばセンターにどれだけの職員がいて、どれだけの仕事をしているのか、他の部署と
比較したこともないし、他の市町村とも比較したことは無い。それはお金も人も欲
しいけど、それは結論としては入れないほうがいいと思う。

委 員：本文の中にどこかやっぱり限られた財源で知恵を出してやっているというのは
書いてありましたか。

副会長：最初のほうに書きました。限られた中で、ということは書いています。

委員：まとめましょう。それではその四という数字はやめて、この内容を生かすのは総結論としてこれを入れましょう。課題として。「おわりに」のところに4番目に入れましょうと最初言いましたけれども、今皆さんの意見を総合すると、四として具体的なものは出なかったの、四の代わりに事業評価とそのPDCAをもう少しきっちりやるということで、一、二、三を実現していきましようみたいな話を結論として書きましょう。

(全員同意)

委員：最後にそれを支える協議会の活性化を入れていただく。

委員：あとは皆さんの個人のコメントのところ。

委員：で、それを誰がまとめるの。

委員：まずワードを。例えば、「一から三を可能にするために」「体制を整える」盛り込む言葉を先に出しましょう。〇〇委員、PDCAをどのように書いたらいいですか。

委員：「正しいPDCAサイクルを回すことが必要です」

委員：「正しい」というのがよくわかりません。

委員：「客観的なPDCAサイクルを回す」PDCAサイクルという言葉を入れないと起承転結になってしまう。

委員：PDCAサイクルというと好きな人と嫌いな人がいる。私は好きですが。

委員：僕はあまり好きではない。形式的にやらされる。

委員：それは間違ったPDCAでしょう。

委員：今、間違ったPDCAと言ったでしょう。間違っただってというのは何で間違っちゃうのですか。例えば最初のプランの設定が間違えているとか。目標の設定があいまいとか。

委員：サイクルということは、スタートしてもとに戻る。上から見るとスパイラルで上がっていく。それが今の事業分析は起承転結で終わりです。起のところで、「前年度どうだった」で、何を目標に何をやったか尺度が毎年変わってしまう。

委員：その尺度に市民ニーズを入れるということですか。

委員：いいえ。プラン、ドウのところがあるでしょ。プランしていないものがドウのところに出てくる。今の事業分析を見ていると。「そんなこと前にプランしたっけ」というのが出てくる。1年でも中間でも、「何をこの一年間やります」「どういうことができたら成功と見做します」みたいなことをちゃんと言って、それでやってい

く。それでチェックして、アクション。それがP D C Aサイクル。今のを見ていると予算これぐらいで、これをやります。要するにブレイクダウンしていく。今の事業分析は。ブレイクダウンしちゃって、「こういうのが出来ました」「結果的にこうでした」というだけ。本来プランニングした時と比べてどうでしたと言うチェックが出来ていない。

委員：PとCがダメということですか。

委員：別の視点ではビジョンが無いということです。

委員：私がオリジナルで言っているわけではなくて。こちらの事業計画でP D C Aを回すと書いてあるから言っているだけです。

事務局：以前の運協にいらした方はご存知だと思いますが、昔の事業評価シートでは、そのやり方をしていました。企画書をまず出して意見をもらって実施して、もともと指標があってそれがどうなったというのを報告して、また、意見を頂いて、それを一年度やるという方法をやっていた。あまりにも量が多くて時間的にやりきれず、それだけで終わってしまうということがあったので。実は事業評価シートはまだ私たち職員はずっと使っている。ただ、この運協に報告するときには、そのPの部分ではもう話さず、やったことを半期ごとに報告をする形になりました。

委員：ただ、その時に問題となったのは、その評価、例えば「参加者の満足度が8割以上だったらAとする」そのやり方自体に問題があるのではないか。参加した人は皆悪いことは書かない。少々満足くらいに丸をつけて、それをOKとするかどうか問題とされて、それはどうしたらいいのか私たちもはっきりわからない。とりあえず保留にしておきましょうという形、次の年の参考程度にする。厳しくチェック、評価できるものではないという結論に達した。チェックをどうするかというものが、私たちでは力量不足だったという部分がある。「参加人数が多けりゃいいのか」とかそういうところも結論としてはなかなか出なかった。3倍くらいの応募者があればそれはすごいニーズがあって良いと評価するかとか決めきれなかった。

委員：多分Pのところは抽象的な表現になっている。新規受講者を増やすのが目的ですか。もしそれが一番大事だったらそれをまず掲げて、それを増やすためにはどうするかという手段があって、それをブレイクダウンしていく。それを実行していくのだけど、プランするときそういう尺度がはっきりしていない。

委員：すごく厳しいことを言うのならば、確かにビジョンが、なんとなく良いものだけど、何を目指して、どこまで達成する学習なのかというのがもう一つ明確じゃないところがある。それを明確にできるのかどうかというのが、私も答えとして持っていない。そのへんがPとして十分じゃないから、チェックの仕方ももう一つあいまいになっているのかも知れない。

委員：さきほど〇〇委員が言われたように何を優先してというのがもしプランニングに入っているのであれば、1年間それに向けて判断しながらやっていける。プラン

ニングのところで「そういうことをやりましょう」なんてどこにも無い。だから効率的に限られた予算、人数でやるというプランニングを選択するのであれば、それに向けてPDCAを回していける。プランニングが間違っているから漫然とやっている。だから形だけの起承転結ですねと言っている。

委員：評価基準を明確にするということですかね。

委員：そういうこともあるでしょう。

委員：明確にするのも困難なところですよ。

委員：評価基準、評価尺度だけ議論して、それをちゃんとしていけばあとはぐるぐる回る。それをあいまいなまま行ってしまうから起承転結になってしまう。

委員：でもそれも講座ごとに違うわけじゃないですか。そこまで時間をかけてできない。

委員：10種類あるのだったら、10種類の共通点は何なのか、それを議論して一つに決める。抽象的に捉えて。それって一体何なのと。

委員：いや、一方で抽象化すると、明確じゃ無くなってくる。

委員：だから講座ごとに違うのであれば、講座の受講者の満足する度合いがものによって違う。単純に出席率で判るわけない。何か決めるべきじゃないですか。もっと新しい受講者を増やしましょうというのだったら、そういう尺度にするとか。

委員：この言葉を使って文章を作る。体裁を整えるために、PDCAサイクルを客観的にして、新たに市民ニーズに沿ったものをしていきたいと思いますという結論でいいのでは。

副会長：PDCAサイクルというキーワードと、さっきでていた事業分析はイコールでは無い気もする。事業分析のやり方を改善しようというのとPDCAサイクル・・・、「客観的な」というのは、よく理解できない部分がある。何が客観的で、何が主観的なのか、それは置いておくにしても、このキーワードでまとめたほうがここの総意というか最終的な結論、今後の課題になるのか、それとも先ほどの事業分析のやり方をより改善しようのほうがいいのか。

委員：今の話をきいていたらPDCAサイクルがわからなくなってきた。

委員：事業分析でいいじゃないですか。

副会長：では、事業分析のやり方を改善していく。より良く。それで第一、第二、第三に出てきているような、まとめたようなニーズを実現するためにも事業分析のやり方を改善しようという、それで最後まとめる。

委員：事業の取捨選択みたいなことですか。

委員：そういう意味です。集中と選択です。

委員：P D C AでいうところのPが、市民ニーズに沿ったものを把握しようとするなら、結果として指標としては、応募数が一個の指標にもなるかも知れないし、全然違う新たな、例えば「写真の撮り方」ってやったら、今まで来たことのない人がワンサと来た、こんなところにも実はニーズが転がっていたんだというのは、それは当たりということですね。そこを見つける方法はまた別にあったり、職員のアンテナだったり、そのやり方はまたその次のステップということですか。

委員：そうですね。とりあえず、ここでは体裁を整えるということですね。

委員：今は、たぶん何をやるかというのはアンケートとかではなく、職員のアンテナと去年までの実績がもとになっている。毎年変えるというのは大変なことだけれども、そこは勇気を持って、アンテナ張って、「これは今もうニーズじゃないな」という、ニーズがPであるならばですが、ニーズがPでなければならぬという気がします。

委員：市民ニーズをキーにした事業分析ですね。

委員：委員のコメントというのは。

副会長：前に一旦合意したのは、儀礼的な挨拶は無しにして、本当に自分が言いたい意見だとか、考えたこと、感じたことをそのまま書く、それで1000字以上、400字以内で、1月末、来週末までに書いて送っていただくということで、よろしくお願いします。

委員：議論にならなかったほかの赤のところは、一応反映してもらえるのですか。

副会長：基本的には。

課長：一点だけ。NAV Iの発行のところですね。4（1）の一番最後のところ。「紙媒体のNAV Iの発行を見直すべきです。」の発行というのは、NAV Iを見直すべきなのか、上に電子媒体のNAV Iとの相乗効果を狙いながらと書いてあるので・・・。

委員：発行方法にしましょうか。0か1かでドキッとするといいですね。

センター長：そうですね。この書き方だと、通常は「やめてしまえ」というふうに捉えがちですから。

委員：発行方法じゃダメ？

課長：単に「NAV Iを見直す」じゃダメですか？「紙媒体のNAV Iを見直すべき」。

委員：では、発行を取りましょう。

委員：〇〇委員の3ページの3の手前、「今後議論すべきです。」というのがあります。それと事務局が言われたNAV Iの「見直すべきです」は全体から見るとここだけ

非常に強いなという気がするので、例えば「する必要がある」とか「見直すことを望みます」とか柔らかい感じがいいと思う。

委員：「必要があります」にしましょう。

事務局：「今後議論すべきです」を「今後議論する必要があります。」ですね。

委員：WORDを送ります。

副会長：他はよろしいですか。では、これで議論を終わりにします。

次回の日程

日時 2020年2月19日（水）13：00～15：00

会場 生涯学習センター 学習室1・2